



國圖志通解

三

特別
ル9
3099
3



129
3099
3



新國圖誌通解卷之三

彌利堅國即ち育奈士迭國總記下

按るるり粵人咸稱して彌利堅國と云又花旂國と

云其實ハ彌利堅即ち墨利加又美理哥又作る乃ち

國名ニ非ぞ西洋部落と稱して士迭と云而して彌

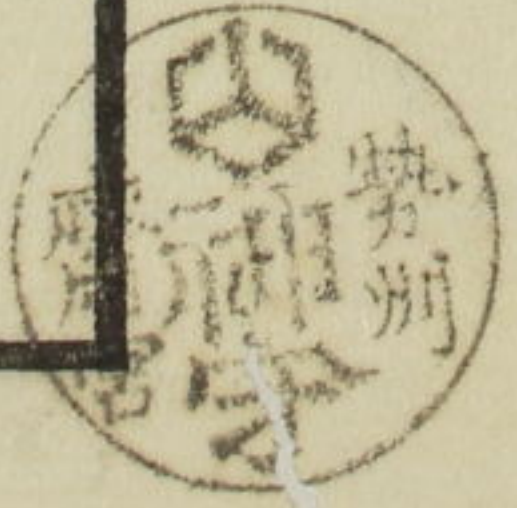
利堅又國王を止二十六部頭目と設け別々一大

頭目と公擧して之と總理を故又其國と育奈士迭

國と名く猶華言部落と總理をと云グ如く夷圖及

び貿易通志譯して兼攝邦國と云其國王無の故を

以て則育奈士迭も亦地名ニ非ぞ故仍彌利堅を以



て之と稱を

育奈士迭國北阿墨利加洲中あり最も鉅區と爲を
其地古より各洲又通せど土曠く人稀又皆因底阿の
遊獵を西洋紀歲千二百九十二年宋の祥
興十五年我國の正應呂宋の戈攬麻土船又乘りて西
又駛を始めて此地と知り創て佛羅里達部落と立つ開
墾興築し將又二百年なりんと地と闢く未だ廣
くは千五百八十四年明の萬歷十二年我國の天正
英吉利女王依里薩拍の時英吉利人彌利堅海岸又往
て開墾せんとめり大呂宋人拒む戰ふ英吉利人敗走

海三十一

を英國女王依里薩拍遂又勇將精兵として往て其地
と墾りし人敢て阻むるとぬく遂又其地と名けて
往治泥阿と云續て二臣又協せ部落と創め復と羅阿
象の地と墾りし英國占士王遂又甘巴尼二員と設
け分て之と治む一と蘭頓甘巴尼と一と勃列茂甘
巴尼と云又屬する所の各部落又於て増して岡色爾
の官と設く而して蘭頓の岡色爾又總轄又三巨船と
遣り船毎又百有五人と載て河小瀕して部落と建築
を即ち國王の名と以て之と名けて占士部落と云千
六百有七年の萬歷三十五年我國の慶長英人と土人

と争闘を英吉利の首領土彌土目包哈但摘るる所と
 為る自後英人敢て横行せむ惟土人と相闘姫一生齒
 日々熾なり千六百廿一年明の天啓元年俄國の元
 英國總領と汪治尼阿と説く是年嚴又波羅特士頓教
 と禁を斯の教逃ま出る者數百人荷蘭駕丹より彌利
 堅に至り開墾を創て城邑を建つ紐英蘭と云千六百
 二十八年明の崇禎元年我國の寛永復と沙廉地と得
 て即ち今の馬朱碩士部落自ら總領と設け自ら律例
 と立つ千六百三十二年明の崇禎五年我國の寛永九
 會社と覓め出を千六百三十五年明の崇禎八年勃羅

海三二

威電と覓め出を次年衰弱底格と開出を千六百三十
 八年明の崇禎十一年復と紐含汾と開と出を歷年海
 岸又在りて墾く所の緬地と并せ均く城邑と建築を
 官と設け治理を尚歐羅巴人續きて洲内各地と墾く
 千六百四十二年明の崇禎十五年英國女王馬里阿加
 特力教の律官と勅して來りて此地と治め一む亦國
 王の名と以て之と其地と名け馬里蘭と云千六百六
 十三年清の康熙二年我國の寛文英國查爾士王數臣
 として往て彌利堅の南隅と墾く一む即ち今の戈羅
 里那亦國王の名と以て之と名け其首部落と查爾士

頭と云後又地と擴め疆と開き遂に分て南戈羅里北
戈羅里と爲し明年英國復と荷蘭と緞林と墾く所の
紐育紐惹西若地拉注三部落とと奪取る是千六百八
十年又至る清の康熙十九年我國の延寶英吉利水師
官威廉邊なる者復賓西爾注尼阿部落を開く千七百
三十二年清の雍正十年我國の享保英人復若治阿の
地と墾く心カと竭し艱險と歴て千七百五十二年又
至る清の乾隆十七年我國の寶曆始て部落と成を戈
羅里又異なりとゆ一英吉利占士王查爾士王又二代
得る所の阿彌利堅洲内の部落と計るに十有六區悉

海三三

く因底阿土番と將て之と遐陬又驅り千七百五十六
年六十二年又至り清の乾隆二十一年二十八年又至
り我國の寶曆五復兵と興し佛蘭西國又墾く所の加
那達佛羅里達の兩大部落と奪ひ據る墨西哥一國と
除く外凡そ歐羅巴人墾く所阿彌利堅洲部落英國又
歸する者十有八區盛極りて驕と生し強て稅餉と徴
を部衆免と籲ふ聽む千七百七十六年清の乾隆四十
一年我國の安永士衆憤怒し次年遂に佛蘭西大呂宋
荷蘭諸の仇國助兵と約し恢復爰に議を戈攬彌阿の
注申頭と以て首區と爲し兵馬と總統し稱して育奈

士迭國と爲し英國と血戦するを七年客主と敵せし
 大英軍と破る國勢遂に定る千七百八十三年清の
 乾隆四十八年三癸卯年天明即ち附近の彌斯栖比各部
 落あり前より來り之を歸せ千七百九十二年清の乾隆
 五十七年四壬子年寛政根特機部落あり衆を率ひて之
 を附く千七百九十六年清の嘉慶元年八丙辰年寛政地
 尼西部の衆咸る英吉利と背て之を附く洼門部落阿
 希阿の地より開墾より十四年の久しと歴て始
 て部落と成る千八百有二年清の嘉慶七年和壬戌
 小於て即ち來りて之を歸せ因底阿那伊里内斯西隅

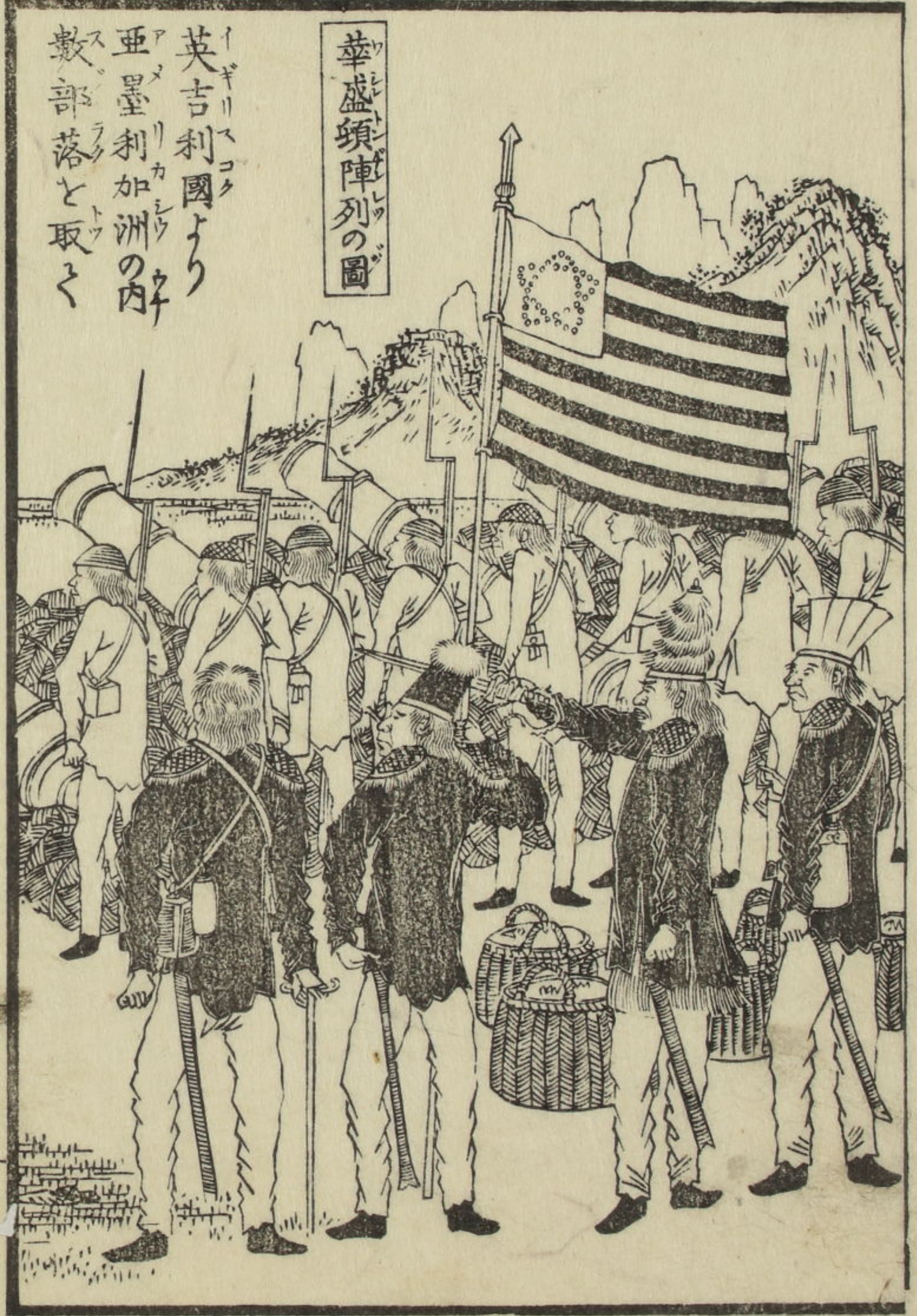
の阿那麻馬同彌斯西北極南海邊の佛羅里達緬
 地馬沙朱碩斯以て彌斯西北東邊の各部落米梭里諸
 部落及び千八百十六年より二十年に至るに於て
 清の嘉慶二十一年より二十五年に至り我國の文化
 政三先後之を歸せ千八百三十六年清の道光十五年
 我國の天保阿干薩斯米治顏同時之を附く此尚
 六乙未年彌斯栖比西隅の雷栖阿那一部落あり亦價を以て諸
 と佛蘭西と贖ふて育奈士迭管轄を歸せ統計育奈士
 送と設け立る以後凡そ六十年創て大部二十有七と
 建て大國と稱し英吉利と勅敵と爲る

驕と極め虐政を
 是に因て衆民
 憤怒し佛蘭西
 大呂宋和蘭
 等の英國に
 敵を國々へ
 加勢を乞ひ華
 盛頭と押し大
 將と英國と戦
 ひと交ゆ事七
 ケ年終に勝利と
 得て初て合衆國
 と立る



英吉利國より
 亞墨利加洲の内
 數部落と取く

華盛頭陣列の圖



政事ハ千七百八十九年清の乾隆五十四年我國の寛
より議して育奈士迭國と立つ戈攬彌阿の佳申頓と
以て首區と為る國王をさし因て遂に勃列西領一人
と設け全國兵刑賦稅官吏黜陟と綜理を然る軍國
重事外邦和戰又關係する者必を西業と會議して而
後行ふ設け見る所同トウウゴまバ則ち三占して二
又從ふ文武大吏と外調一律例と更定し必詢謀僉同
トク例と定む勃列西領四年と以て一任と以て期満て
更代を綜理元又協ひ通國悦服する如との亦再留一
任する者あり總て世襲身と終るの事なり公舉の例

又至てハ先づ各部落人民公舉より依力多と云各
部落官府詳定と經て袞額里士衙門又送り人數と核
定を西業の西那多里勃里先特底甫官額と相若く各
自一人と保舉し暗書彌封し公所又存貯し齊と俟り
發閱を推薦するの最も多き者と以て選入ると為る
如し官舉ありて民舉なく民舉ありて官舉なく彼此
爭執する時ハ即ち里勃里先特底甫又由り衆人舉る
所の中又於て推薦最も多き者三人と揀選し仍各々
依力多より三占して一と擇ぶ斯重任又膺り其舉
る所の人首として育奈士迭國中又生ると重んぶ

尤も必^モ首^シ區^ク又^キ居住^スを十四年^ノの久^キと歴^ヒて年^ニ三十五
 歳^ヲと逾^ヘ方^マ又^キ例^ト又^キ合^フとと爲^ス否^カらざる^ハ則^チ亦^マ選^ビ
 入^ルらん
 副^ス勃^レ列^シ西^シ領^ト一人^ヲと設^ケ立^ツる^ハ即^チ衮^ニ額^リ士^ス衙^モ門^ニ西^シ業^ト
 の首^シ領^ト若^クい^ハ勃^レ列^シ西^シ領^ト事^ト故^ハあ^リり^キ遇^ヒ或^ハ事^ト又^キ因^リ
 り國^トと出^テ即^チ副^ス勃^レ列^シ西^シ領^トと以^テ暫^ク理^ヒ其^ノ保^シ舉^ルハ
 前^ノ例^ノ如^ク一
 衮^ニ額^リ士^ス衙^モ門^ニ一^ノ所^ヲと設^ケ立^ツ國^中法^令の事^トと司^ル
 二^ノ等^トと分^レ列^シを一^トと西^シ業^トと云^フ一^トと里^リ勃^レ里^ス先^ニ好^シ司^トと云^フ
 好^シ衙^モ門^ノの二^ノ字^ハハ
 猶^モ衙^モ門^ノの二^ノ字^ハハ

西^シ業^ト又^キ在^リて事^トと執^ル者^トと西^シ那^タ多^タと云^フ部^ニ落^ト毎^ニ二
 人^トと公^キ舉^ル一^ノ充^トと承^ク六^年更^代と舉^ル所^ノ人^ト必^ズと
 首^シ區^ト又^キ居^ルる^ハ九^年あ^リて年^ニ三十^歳又^キ至^ル者^ト方^ニ
 例^ト又^キ合^フとと専^ラ法^律と司^ル審^又詞^訟と判^ル如^ク
 一^ノ軍^國重^事又^キ遇^ハ其^ノ權^固く之^ト勃^レ列^シ西^シ領^ト又^キ操^ル
 亦^モ必^ズと西^シ那^タ多^タ議^允とる^ハ由^リ施^シ行^フ常^座事^ト
 治^ヒる者^ト額^ニ二十^人士^ト丹^各甘^密底^ト云^フ額^數とる^者
 と甘^密底^トと云^フ皆^シ西^シ那^タ多^タ公^同又^キ闡^トと拈^ル六月^八日
 と以^テ一^ノ任^トとを^シ期^満ちて後^復と闡^トと拈^ルて之^ト
 と易^カふ

リホリセンコウスア
里勃里先好司ニ在りて事を執る者と特底甫と云
各部落核計四萬七千七百人の中より一人と公舉
充と承く二年更易舉る所の人首區ニ居と七年
と須ち並又年二十五歳ニ至る者方又例又合ふ現
在の人数を以て之と計る特底甫約二百四十二人
士碧加一人と立て其事と總司を頭目たり凡國中
錢糧と徴收する税餉均く特底甫の替核又由る官
府詞訟ハ則ち特底甫も亦判斷とべし常座事と治
ひふの士丹各密底每年三月初四日又於て士碧
加より各特底甫中又于て二十九人と棟派し六人

と以て専ら會議と司る其餘或ハ外國の事宣と理
め或ハ計謀と設け或ハ貿易と理め或ハ工作と理
め或ハ耕種と理め或ハ武事と理め或ハ水師と理
め或ハ公衆田地と理め或ハ按件と理め或ハ驛站
と理め或ハ因底阿人の事件と理め各々其事と司
る一年期滿を以て再び士碧加より選代を
毎歳十二月内第一禮拜の日ハ則ち滾額里士衙門
の西那多里勃里先衙門の特底甫齊く集り會議
或ハ賦税と或ハ國用足を高議し諸と他國又貸り
諸と本國又貸り或貿易如何興旺せん鑄銀輕重大

小を議一或は海上盜賊如何懲治せんと議を或は
國中重獄有無冤抑或は士卒と蒐閱一兵額を増益
一或は俘虜を釋回一或は嚴又法律を立凶頑を懲
服一或は他國窺伺如何防禦せん一々定議一歲中
倉猝事あるは遇又至ては空く時又隨ひ變は應ぞ
或一又此例はあはれ
其專ら訟獄を司る衙門注申頌は在る者一と蕪勃林
と云各部落は在る者と薩吉と云凡そ七底士特力と
云凡そ三十有三谷々本國法律を以て判斷を
蕪勃林衙門一所專ら審訊を司る額正官一員副官

六員を設く一人毎又一薩吉凡國內大官の訟を分
轄を或は案中大官又牽涉するの訟へあり或は大
又屬する薩吉轄する所の部落と別薩吉轄する所
の部落と睦しうし争執の訟均しく其審斷する
所又歸を
薩吉衙門七所薩吉毎又底士特力四五屬と轄を等
しうし凡そ屬下部落の獄罰贖銀百員以上ある
者或は犯を所の事例監禁するは六月から一へさ者
俱は薩吉審判又歸を
底士特力衙門三十有三所底士特力毎又部落と轄

多寡等しく凡そ屬下部落輕罪と犯そと
洋に在て法らざる者とり俱に庶士特力審斷
歸を其情節輕重と按じ罪名と擬議し間結案
と能ざる者あまは薩吉不送り審斷を或は薩吉
と會訊を

部路毎に庶士特力阿多尼一員麻沙爾一員と説く庶
士特力阿多尼専ら緝捕と司り屬する所の官民の訟
獄と理む麻沙爾の薩吉庶事特力等衙門と會同し部
内の事と審判を國中衮額里士の外に于て又士送西
格里達里一人仁尼臘仁尼臘爾二人を説け立つ國中

に在て事と治む士送西格里達里を以て首と為を行
軍の若さへ則ち兩仁尼臘爾を以て首と為を俱に勃
列西領の調遣と聽く又三人副勃列西領と會合する
と加彌業とを國中印信法律章程官府文檄及び他國
來往文書と掌る照票兼理巴鼎荷非士文案と存貯を
凡そ加彌業鄰國相交の事と總理し内五等と分つ勃
羅麻的模里敖と云衮蘿拉模里敖と云龕模里敖と云
阿支付士と云巴鼎荷非士と云各々其事と執る
其賦税の西格里達里荷非士衮多羅拉二人敖底多五
人里尼士達特列沙那疏里西多等の官と設け立て專

ら征收支弁と司る歳々其數と衣額里士衙門に報を
 以て替技と候つ其武事ハ額里貴西循模里教官芒地
 蘭模里教官兵餉官と設け因底阿土人の事務と管理
 する官火器と督理する官繪圖地畝と丈量する官其
 總兵仁尼臘爾因智甫官と云官兵と統轄一東西二路
 又分ち東路總兵ハ緬地紐舍社馬沙朱碩斯注門衣特
 底格律愛倫紐育紐惹西地那注馬里蘭注治尼阿南戈
 羅里北戈羅里佛里達賓西爾注尼阿若治阿根特機地
 尼栖阿希阿彌治顏等二十部の兵と統轄一西路總兵
 ハ阿拉麻馬彌斯西比雷西阿那阿千薩士因地阿那伊

里内土彌梭里威士哀申達多里等十一部の兵と統轄
 と國中節番養兵甚どる馬約仁尼那爾官一員
 墨里牙底阿士仁尼那爾官三員戈羅尼爾官十九員副
 員と設く馬兵兩隊砲兵四隊歩兵七隊及び製造火器
 兵器繪圖工匠統計僅に戰兵七千有六百名と領と毎
 年支發する兵餉銀九十八萬八千三百十七員兵丁と
 津貼する銀四十九萬五千五百員每兵歳に餉銀將に
 二百員方らん兵少く餉厚し故に訓練精強し又
 軍裝器械と製造する銀三十三萬員軍器と存貯を庫
 銀二十三萬一千五百員凡達麻士達底入門銀三十三

萬二千員國中地方と防守とる 汎兵の銀一百三十萬
員各外防守礮臺兵銀二十萬員此守兵の戰兵の外
あり共計る戰守兵餉及び器械と修理とる 需共
とる銀三百八十七萬七千三百一十七員
千七百九十八年清の嘉慶三年 我國の寛政 水師書院
と管理とる 衙門と設け立つ千八百十五年清の嘉慶
二十年 我國の文化始て水師と管領とる官と立つ兵
船甚ど多うり以而るふ英吉利と戰と交ること三年
地險と心齊く水戰練習し其名遂と著るる原と大
兵船十五隻中兵船二十五隻小兵船二十三隻火烟輪

後三十二

兵船一隻と設く近年船用と敷ぶるに因り兵船と増
修し復船廠七彫刻廠二所と設く歷年水師と支發と
る銀二百三十一萬八千員船と修とる銀百有六萬五
千員津貼銀七十八萬二千員船廠と修とる銀七十九
萬八千一百二十五員水上費用銀四十三萬八千七百
四十九員南極と巡査とる費用銀三十萬員需と共とる
銀五百九十萬有奇
波斯麻達仁尼臘爾衙門國中水陸郵程遞報の事と掌
理と遞報道路と計る約七十一萬二千七百七十四里
毎年往來路程約七千五百八十六萬九千四百八十

六里各處信驛と計るゝ萬有七百七十所歷年往來驛
 費銀二百七十萬々七千三百五十員歷年約そ收信價
 銀二百九十九萬三千五百五十六員出入と綜計する
 盈あり
 國中原と非臘特爾非阿又在て金銀と鑄る局一所と
 設く千八百三十五年清の道光五年中 我國の大政復
 紐哈蘭北戈羅里若治阿三部落又在て各々一所を増
 設く派官鑄と監そ其爐竈器具機竅皆火烟と以て
 激動を人力と煩ふ計るゝ毎年傾鑄金錢值銀二百
 十八萬千一百七十五員銀錢三百四十四萬四千零三

員銅錢值銀三萬九千四百八十九員統值銀五百六十
 七萬員
 各部落自ら小總領一人と立つ部落の事と管理一部
 落毎々一々事と公所又議そ其官も亦二等と分つ一
 と西業と云一と里勃里先特底甫と云即ち本部落由
 り各々一人と擇で自ら理そ其本部の事小事各々條
 例と設く地又因て宜く制そ大事へ則ち必だ國中律
 例又遵ふ稅餉と増減一兵馬と招と集り戰船と建造
 鑄局と開設一他部落と衅と尋と約と立る等の事
 の如く均く擅專するると得だ舉る所事と執の人数



毎歳十二月滾額里士衙門の
 西那多里勃里先衙門の
 特底甫齊く集り
 國政と議一或ハ
 賦税と加減と
 子グ
 圖

月一更代を武事と分管一章程と設立一牌照と給發
 一銀店と開設一貿易工作教門貧窮と賑濟一及び天
 文館地理館博物館義學館と設立一道路橋梁と修整
 一河道と疏濬するが如き皆官又其事と司る其法律
 大都歐羅巴の律と宗と一刪改して成を錢糧稅餉と
 征收する國中經費出入と通酌一定額と公議一多く
 取ると得ど
 國中錢糧稅餉惟業と創め國と開と軍旅時と興り入
 出の數と遂と民項と虧次と致と數とと贊る
 りん千七百八十三年清の乾隆四十八年我國の天明
 三癸卯年

海三子五

欠項僅り四千二百萬員千七百九十三年即ち多きと
 八千有三十五萬二千員に至る官府歷年籌補止四千
 五百萬員と餘を千八百十三年清の嘉慶十八年の我國
 化十癸英吉利と兵と交ると三年をりよ因て即ち欠
 一萬二千七百三十三萬四千九百三十員に至る千八
 百十六年又至るに追んで兵戈寢く定り二十年來統
 計還る所の子母共二萬一千二百萬員開國の初より
 當り輕稅薄斂原と用と足るべし英國と攻戰するより
 供億浩繁向は佛蘭西雷西阿那佛羅里達兩部落と贖
 回するに及び費を所亦輕くは千七百九十八年清

の嘉慶三年我國の寛政千八百十三四五等の年及
 び始て征と戸口田地房産又加ふ奴僕等項錢糧毎年
 或ハ一百七十五萬或ハ二百萬或ハ三百萬と加ふ多
 少等一りうろど千八百十六年清の嘉慶二十一年我國
 丙子年征と加ふると停止を惟八口貨物稅餉と征收
 貿易の盛衰と視て多寡と為を按ざるふ千八百十
 六年征る所の稅餉多く三千六百三十萬有奇に至
 る此より以後十年即ち僅に千三百萬以て二千萬員
 に至ると收む等一りうろど千八百二十五年より千八
 百三十四年に至る清の道光五年より同十四年まで

我國の文政ハより 二千萬より三千万員に至る等
 天保五年に至り 減少と見る此外尚出賣官地一項わ
 其田地散して各部に在てハ即ち先日價と以て佛
 蘭西及び因底阿土人の田地と買ひ逐一丈量り畫
 して當濕を分つ村庄也當濕毎三十六色循と計る
 色循毎六十四埃加一畝也學校道路河道基址千六
 百有四萬零二千四埃加と留め出を除く外餘俱と
 勃列西領より出して招買と示を初て毎埃加の價と
 定む値の二員先に半價と交へ餘半の期年より交
 交託る嗣で欠價を因り繳せざる者二千二百萬員旋

減價と議を埃加毎又定價一員零先土二十五枚欠と
 賒ると得て自後毎年賣出を田土價値少るに則ち百
 餘萬員多るに則ち六百萬員有奇千八百三十五年清
 の道光十五年我國の天保得る所の賣價多ると千二
 百萬員に至る截め是年又至て止とを阿希阿杖出を
 田土と計るに千四百七十萬零三千一百六十三埃加
 已又賣る者千有六十萬二千六百七十一埃加田價と
 得ると千有九百四十八萬九千九百三十二員因底阿
 那文出を田土千有八百九十九萬零四百四十七埃
 加已又賣る者八百三十九萬零八百三十九埃加田價

海子十七

と得ると千有八十一萬零百七十二員依里内土文出
 を田土二千一百五十七萬四千四百五十九埃加已
 又賣る者四百三十四萬零四百八十一埃加田價と得
 ると五百五十五萬五千四百八十七員阿那麻馬文出
 を田土二千九百九十一萬五千零八十八埃加已又
 賣る者七百三十二萬九千零三十埃加田價と得ると
 一千三百零萬七千一百十五員彌斯西比文出を田
 土千有七百五十二萬五千八百二十埃加已又賣る者
 五千六百萬零一千五百十七埃加田價と得ると七百
 八十二萬二千九百八十七員雷西阿那文出を田土

六百四十五萬零九百四十二埃加已又賣る者七十六
 萬七千四百十五埃加田價と得ると百有十六萬二千
 五百九十一員彌治顏湖東文出とる田土千有二百二
 十萬一千五百十九埃加已又賣る者三百二十萬零七
 千八百二十二埃加田價と得ると四百零七萬二千三
 百九十四員彌治顏湖西文出とる田土四百六十七萬
 四千六百九十一埃加已又賣る者十四萬九千七百五
 十五埃加田價と得ると二十一萬五千一百八十九員
 阿干薩士文出とる田土千有三百八十九萬一千五百
 三十八埃加已又賣る者六十六萬八千三百六十二埃

加田價と得ると八十六萬一千八百十六員佛羅里達
 文出とる田土六百八十六萬七千一百三十埃加已又
 賣る者四十九萬二千九百零九埃加田價と得ること
 六十五萬七千零九十二員統計已又賣る田土四千五
 百四十九萬九千六百二十一埃加未ど賣らざる者萬
 有二千一百三十九萬七千四百六十三埃加別又曠野
 荒郊田土七萬七千萬埃加已又文過萬有二千二百三
 十萬埃加賣出とる田價と計ると共又六千七百八十
 二萬零八十五員因底阿土人の事務と辨理とる需銀
 千有七百五十四萬一千五百六十員雷西阿那部落と

買ふ需銀二千三百五十二萬九千三百五十三員 佛
 羅里達部落の需銀六百四十八萬九千七百六十九員
 若治阿部落へ還る銀一百二十五萬員 彌斯西北部落
 の銀店に贖ふ需銀一百八十三萬二千三百七十五員
 地方官の需銀三百三十六萬七千九百五十一員 地畝
 と丈量する需銀七十八萬六千六百十七員 共需銀
 五千八百四十三萬八千八百二十四員と總て出入と
 綜計するに盈あり 緇あり

新國圖誌通解卷之三終



